

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 133	175	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 0	1	ヘルパンギーナ	↑ 32	20
咽頭結膜熱	↑ 23	21	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 34	54
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 84	65	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 430	373	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 9	12
水痘	↓ 55	115	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 7	4	無菌性髄膜炎	↓ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 2	10	マイコプラズマ肺炎	↓ 1	2
突発性発しん	↑ 59	51	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎、インフルエンザ、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎の報告が多い。感染性胃腸炎は、報告数 430 (前週報告数 373 件) と増加。地区別では、山鹿、菊池、有明に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の70件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- インフルエンザは、報告数 133 件(前週報告数 175 件)と減少。地区別では、宇城、人吉、八代に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の40件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 84 件(前週報告数 65 件)と増加。地区別では、水俣、人吉、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の17件を最多に主に10～14歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	48	0	8	39	115	27	3	1	23	0	5	6		9				1
山鹿保健所	4	0	0	0	46	3	0	1	3	0	0	0	*	*				
菊池保健所	10	0	12	7	56	6	2	0	10	0	4	4						
阿蘇保健所	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	17	0	0	5	42	3	0	0	3	0	3	3						
水俣保健所	2	0	0	8	18	1	0	0	3	0	0	2	*	*				
人吉保健所	13	0	0	10	33	4	0	0	7	0	10	0	*	*				
有明保健所	4	0	3	9	60	7	0	0	1	0	7	2						
宇城保健所	16	0	0	2	30	3	2	0	3	0	1	4						
天草保健所	7	0	0	4	19	1	0	0	6	0	2	13						
計	133	0	23	84	430	55	7	2	59	0	32	34	0	9	0	0	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	133		3	2	5	7	12	8	8	10	6	11	40	6	3	6	4	2				
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	23		6	7	2	4	2		1	1												
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	84		1	4	4	8	6	17	10	11	10	2	9		2							
感染性胃腸炎	430	8	35	70	51	35	40	32	18	27	20	20	41	9	24							
水痘	55	5	3	11	12	11	3	4	1	1		2	2									
手足口病	7		1	4				1					1									
伝染性紅斑	2			1						1												
突発性発しん	59	3	26	26	4																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	32	1	5	14	7	1	1	2				1										
流行性耳下腺炎	34			3	1	6	1	8	1	4	4	3	3									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	9				1					1						2	3	2				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	1			1																		
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ◇ 咽頭結膜熱：菊池
- ◇ 感染性胃腸炎：山鹿

感染性胃腸炎



感染性胃腸炎が2週続けて増加しました。感染性胃腸炎は、例年10月頃から増加し始め12月頃にピークを迎えますが、夏場でも1週間あたり200件前後の報告があり、年間を通して注意が必要な感染症です。感染性胃腸炎の原因には様々なウイルス、細菌などがあります。冬場はノロウイルス、春にはロタウイルス、夏期には腸炎ビブリオなどの細菌を原因としたものが流行します。今週、病原体検査診断情報の報告があった24件のうち、10件がロタウイルス、8件がアデノウイルス、3件が病原性大腸菌、2件がカンピロバクター、残りの1件がロタウイルスとアデノウイルスの混合感染でした。症状は、原因となる病原体や患者の状態により異なりますが、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。子供の場合、元気がなかったり、不機嫌な状態が続く時はすぐに受診してください。家庭では脱水を起こさないよう、水分補給に努めましょう。医療機関や社会福祉施設、学校など集団生活の場では、流行を起こすことがありますので、調理従事者の健康管理、調理や食事の前、トイレの後などの手洗いをしっかり行い、予防に努めましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課